



副代表幹事
行政・制度改革委員会 委員長
小林 栄三
伊藤忠商事
取締役会長

Contents

■特集 1	
全国経済同友会との連携・活動 東日本大震災 追悼シンポジウムと 東北での活動報告	02
■特集 2	
2014年度 事業計画・委員会委員長等一覧	16
■Close-up 提言	
科学技術・イノベーション委員会 提言 野路 國夫 委員長 イノベーションに挑戦する 社会的コンセンサスを	19
■Doyukai Report	
全国経済同友会地方行財政改革推進会議 分権改革委員会 第1回会合 「個性を活かし自立した地方をつくる」 新藤 義孝 総務大臣 内閣府特命担当大臣(国家戦略特別区域・地方分権改革)／ 地域活性化担当大臣／道州制担当大臣	21
被災地出張授業 「高校生に期待する—自己改革を図る—」 浦野 光人 元副代表幹事 2013年度連合との共同研究PT 委員長(ニチレイ 相談役)	23
■Column	
巻頭言 小林 栄三 「高校生への講義をして思うこと」	01
リレートーク 長門 正真 「期せずして人望力・涵養道場」	15
私の思い出写真館 永山 妙子 「心の座標軸「日本」」	26
新入会員紹介	25

「高校生への講義をして思うこと」

先日、母校から、後輩にエールを送ってほしいという依頼があり、2クラス50数名の高校生を前に講義をする機会がありました。“今の若い人には覇気がない”ということをよく聞きますので、果たして後輩たちもそうなのだろうか、少々心配しつつ母校を訪ねたのですが、そのような不安はまったくの杞憂に終わりました。既に外国への留学を経験し、海外で活躍する未来の自分の姿をはっきりと思い描いている生徒がいたり、自分の将来像や無限とも言える可能性を信じている生徒が多かったからです。

さて、この講義の中で、私は明治34年1月2～3日の報知新聞に掲載された「二十世紀の豫言」について話をしました。この「予言」は23項目ありましたが、平成17年版「科学技術白書」で、これらを検証した結果、無線電信および電話、遠距離の写真など、一部実現も含め23項目中17項目が実現されたと評価しています。当時の人々が抱いていた「夢」は、100年後に約7割が実現したわけですが、21世紀に入ってから技術革新のスピードは、20世紀のそれとは比べものにならないほど速くなっており、またその方向も実に多様になっています。

私は、この変化こそ、これからの日本にとってのチャンスであるということ話をしました。そして、このチャンスをしっかりと受け止め、世界の潮流に取り残されることなく、逆にイニシアティブをとってゆくためには、グローバルな視野に立って、感度の高いアンテナを高く掲げるとともに、自分の世界とは違う業種の人々や、世界の多様な価値観を受け入れる柔軟性を身に付けなければならない点も強調しました。

政府は、成長戦略の重要な柱として「規制緩和・改革」を挙げ、変革を促そうとしています。大きく伸ばしたいと考える分野に技術革新がありますが、この規制緩和・改革により、「二十世紀の豫言」にあったような科学技術だけでなく、既存の技術やビジネスモデルの組み合わせにより、いくつもの新しい発想や取り組みが次々と生まれてくるようなイノベーション時代の到来を確信しています。官民を挙げて医療や生命科学などの分野をはじめ、さまざまなフロンティアに資金が投じられることになるでしょう。こうした期待の受け皿が、今の中高校生世代であり、彼らが世界に目を向け、大きく羽ばたく希望を持ち続けられるよう、われわれ民間経営者もできる限りの応援をしていきたいと思えます。

今月の表紙:世界の文様シリーズ

【韓国／伝統刺繍】

韓国刺繍は、色鮮やかでデザインは素朴なところが人気の秘密です。またボジャギというパッチワークもあり、いずれも韓国の伝統手工芸品です。